

今日は！你好

## ないから頑張つて苦勞 あるから捨てて平氣

生物圏科学研究科博士課程後期生物機能科学専攻二年 楊 本 善



「光陰矢の如し」、あっという間にもう二年三ヶ月の月日が経った。私は一九九〇年十月、強い知識欲（日本の先進的な科学技術を学びたい）と好奇心（日本が経済大国になった謎を知りたい）をもって、祖国と親戚友人を離れて、知っているようで知っていないような気がする謎のような日本にやってきた。二年來、専門に関して、一生懸命に勉強や研究をしていると同時に、日本の社会と国民に広範囲に接触してきた。留学ではなく遊学であると言われるかもしれないが、これまでの日本と日本人に対する印象と理解は、より一層深まってきた。これが私にとって学問と同様に重要であると思っている。

「留学生の眼」に掲載しようとする文章にこのようなタイトルをつけておかしいと思われるかもしれませんが、これは確かに私が日本に来て経済大国の交通、通信の便利さ、環境の美しさ、物の豊かさ及び人の親切さを感じると同時に現在の日本の異なる二世代の方々の行動から受けた私の印象である。

「日本は何もない（資源―石油、石炭、鋼

鉄等を指すであろう）から、頑張らなくちゃいかん」という話を時々日本の四十歳以上の方々から聞く。日本の四十歳以上の方々は「会社人」、父達は「日曜日のお父さん」（お父さんは朝早く出て夜遅く帰るから、子供さんが日曜日に限ってお父さんの愛を受けられること）とよく言われて、会社のために国のために自分の命も惜しまずに働いている。「過勞死」ですら出てくるほど、何十時間、更には何日間も連続して真面目に働いている

私は中国の遼寧省で生まれ、東北農學院の大学院を卒業し、同じ大学に三年間勤めて、一九九〇年十月来日しました。

人をよく見る。「過勞死」ということを聞いて、びっくりした。不思議に思い、なかなか理解できなくて、何回も何人にも聞いてもらったが、答はほぼ同じで、「日本は何もないから、一生懸命に働かないと、いい製品、より先進的な技術を持たないと、この地球で存在するのは難しい」と言うことだった。勿論「過勞死」という現象は良くないが、その国民性と勤勉さにとても感心した。何故日本は戦後僅か何十年の間に世界的な経済大国になることが出来たのか？ 原因を探すと云えば、そこにあるのではないか。日本はこのような国民であったからこそ発達したという感じがする。私の国は広いし、資源が豊かであるというのに、何故いま現在、依然として眠っている獅子のように存在しているのか。もし私の国の国民が日本人のような勤勉さと国民性をもち、一生懸命に働けば、日本に追い付き、世界的な経済大国になるのは近い将来のことだと私は確信している。

ところが、四十歳以上の方々とまったく違って、「あるから、遊んでも捨てても構わん」という話を日本の若者達（二十―三十代）の方々からよく聞く。大学に行つて、しっかり勉強している学生もいるが、あまり勉強しない学生が絶対少なくない。しかし、皆が忙し

そうに見える。何をやっているかと聞いたら、アルバイト、遊びと答える人が多い。勉強のためにアルバイトをするのはいいが、遊ぶために、車を買うために、時間を平気で潰したり、大学での勉強の機会を軽々しく捨てたりするのはどう考えても良いとは言えない。又更に、学生寮や学生さんが住んでいるアパートのゴミ捨て場においてみて（特に卒業する時）、まだ使える中古の電気製品、バイク、食器、机、椅子、家庭用品等いっぱい眼に映え、びっくりした。どうしてまだ使えるいいものを捨てるのかと聞いてみたら、「古いから、新しい物があるから捨ててもいいじゃないか、そろそろ就職するからもつといいものが必要なんだ」などと答えた。捨てる人が一生懸命に捨て、管理、処置をする人がとても困って、いかんともしがたい。環境を汚染するし、景色は汚れるし、社会に負担を与える。何故このような文明の国に、お父さんとお母さんがこつこつと誠実に働き、苦勞して買って頂いた物、自分が勉強のための時間を費やし、アルバイトをして、折角買ってきた物を平気で捨てる若者が多いのか。多分、経済大国だから、お金持ちだから、物が沢山あるから、要らない物、更新したい物を捨てても当然だと思われるのである。確かにそうかもしれない。いいえ、そうではないと思う。どんなに豊かであっても、よく使える物を勝手に捨てることは、他人に迷惑を掛けるばかりでなく、浪費なのだ。邪魔な物が本当にある

#### 「広大フォーラム」原稿募集

「広大フォーラム」は、広島大学の教官、職員、学生から広く原稿を募集していますので、下記の要領により、奮って投稿してください。

##### 記

1. 内容は自由であるが、広く広島大学の研究・教育・制度等にかかわるものが望ましい。
2. 1編の文字数は、原則として長文の場合400字詰原稿用紙5枚程度、短文の場合3枚程度とする。できるだけ内容に関係する写真等を添付する。
  - (1) 題字以外に、内容を端的に表す見出しをつける。
  - (2) 長文の場合、100字程度の内容要約（前文）及び中見出しをつける。
  - (3) 文中随所に30字以内の小見出しをつける。長文で5～6ヶ所、短文で2～3ヶ所を目安とする。
  - (4) 高校生程度の学力で理解できる文章とし、原則として「である。」調とする。
  - (5) 原稿には所属・氏名を明記すること。ただし、紙上匿名は可。
3. 原稿の採否は「広大フォーラム」原稿等取扱内規により広報委員会が決定する。
4. 原稿送付先 庶務部企画調査課広報調査係気付  
広島大学広報委員会

としたら、お友達や後輩などの要る人にあげて使ってもらえばいいのではないか。この点については、中国の大学生がよく考えている。まだ使えるものをでたらめに捨てる人が少ない。なぜなら、中国は今そんなに豊かではない、物が余りないからであろう。経済大国の日本に、お父さんとお母さんが忙しく働いているのに対して、若者達がのんびり遊び、平気にものを捨てるのはどう考えても不思議である。日本人が小、中、高校では勉強し、大学では遊ぶ、会社では働くという生活パターンを聞いたことがある。理想的な生活かもしれない。しかし、大学であまり勉強しない人

がどうやって働くのか。たとえ学生さんが会社に入って変身して、こつこつと勉強、働くようになるとしても、お父さんとお母さんのように頑張れるだろうか。もし皆が大学でも勉強に励んだら、日本はもつと素晴らしくなる。そうしないと将来の日本は危ないというような気がする。

「ないから骨折って頑張る、あるから平気で捨てる」という現象は、経済大国では当然にそうなる筈だと思われるかも知れないが、表を通して裏を伺い見ると、何か危機が埋もれているのではないかと思う、具体的に分からないけれど。